

写真甲子園、高校生国際交流写真フェス、国際写真フェス、どんとこい祭り

# 夏真つ盛り、映画「写真甲子園」ロケも加わりフォトフェスタ

夏の写真の祭典・写真の町ひがしかわの国際写真フェスティバル、どんとこい祭りが7月26日から同月31日をメイン期間として開かれました。「第23回写真甲子園」「第32回東川町国際写真フェスティバル」「第2回高校生国際交流写真フェスティバル」、どんとこい祭りに加えて、今年は来年公開予定の映画・写真甲子園の町内撮影ロケーションも加わり、例年以上のお祭りムードが町内に広がりました。

全国の高校写真部の代表校生徒が参加する写真甲子園実行委員会主催の第23回全国高校写真選手権大会「写真甲子園2016」は、各行事に先駆けて7月26日から4日間、東川、東神楽、旭川、美瑛、上富良野（順不同）の5市町を撮影ステージに開きました。

今年の予選応募校は過去最高を更新して527校。全国11ブロックから18校と、今年4月に起きた熊本地震復興へのエールを込めて、特別招待枠として1校（熊本県八代白百合学園高校）を加え19校57人が写真甲子園の聖地に集いました。昨年からは始まった「高校

生国際交流写真フェスティバル」は、東川町と絆がある姉妹交流、文化交流のある国、町など海外11カ国・地域から各1校ずつの高校生チーム（1校3人と顧問1人）、国内3校の高校生チーム（同）が出場しました。

町内市街地、旭岳、どんとこい祭り会場を撮影舞台に、5日間の写真作品作り期間を通して、参加各国・地域の高校生と交流を深めるといふもの。旭岳ステージは悪天候のため中止になりましたが、そのほかのステージでは順調な撮影をこなし、写真甲子園と同様の写真セレクト作業、作品審

査を経験しました。

どんとこい祭りは、30、31両日の期間中、おおむね天候に恵まれました。前夜祭恒例の花火の饗宴は大勢の人出でにぎわい、羽衣公園会場では「おー！」などど歓声と拍手が沸き上がりました。

## 島根県大田高校、初出場で初優勝

「優勝は島根県立大田高校」。グランプリ受賞のアナウンスに、初出場の3人は思わず「えっ、ホント？」と一瞬ぼう然。ステージに上がり優勝旗を手にとると、一気に実感が押し寄せて3人の目から大粒

の涙が……。写真部最大の目標だった念願の出場でしたが、大きな歴史を作ることが出来ました。

撮影フィールドは、初日美瑛町と旭川市旭山動物園、2日目は上富良野町と東神楽町、3日目は東川町内。3人の選手が5カ所の撮影地で写真撮影し、ファースト審査では「生命（いのち）」、「セカンド審査は「発見」、ファイナル審査は「ふれあい」をテーマに、審査会ごとに8枚の作品を提出。立木義浩審査委員長ら審査委員6人の公開審査会で採点し、合計ポイントで各賞を決定しました。



優勝した島根県大田高校（右から清水希さん、松本真実さん、柿田千保美さん、監督の江田修一先生）



旭岳源水水の乱（30日午後2時40分ごろ▶農村改善センター駐車場）